



「世のため人のため」と「戦略」

不動産会社をされる一方で、刑務所から出所した人を見守る保護司として活動して、出所者が復活するための働く場と、教育の場、宿泊の場を支援する(株)ヒューマンハーバーを設立した副島勲さんの話を聞きました。副島さんは、

- ・刑務所では社会教育を受けることはできない。刑務所内での給料は1日6円14銭。出所してもお金も働く場所もない。その結果、犯罪のうち6割が再犯者によって繰り返される。さらに一度失敗した人間には落伍者の烙印が押され再起は簡単ではない。
- ・「就労支援」と「宿泊支援」と「教育支援」の3つが揃わないと社会復帰できない
- ・受刑者への国の支出は1人1年340万円かかっていて、再犯を防ぐとこれを減らす事ができる

と出所者が再出発できる仕組みを考えました。

出所者が再出発できる仕組み

「就労の場づくり」のための資源リサイクルの会社を作るには、数千万円の設備投資が必要でした。副島さんは出資者を募ろうと、一口100万円で50社募集を開始しました。

しかし資本金が集まっても仕事を受注する仕組みが作られなければ継続できません。そこで副島さんは『就労支援10%運動』を展開することにしました。これは企業を回り、

「企業で出るスクラップや廃棄物の10%を市場価格と同じ値段で販売して下さい」

「仕分けした廃棄物や皮をむいた電線を、市場価格と同じ値段で買い取ったり、市場価格と同じ値段で加工して下さい。これにより貴社は特別の負担はなく就労支援に参加して頂けます。するとこの社会問題は必ず前進していきます」

と伝えていきました。中小企業を中心に465社を訪問すると275社が協力してくれました。資本金も集まり平成24年、(株)ヒューマンハーバーを設立します。ヒューマンハーバーは株主への配当がない社会貢献を目的とした日本初の会社でした。

服役経験者は幼児期に愛情や教育を受けていない場合が多く、「教育支援」は専門家による人間教育を行うと共に職業教育や資格取得の教育を提供し、さらに「宿泊支援」では社員寮を作り、寝泊まりして教育を受ける事ができるようにしました。

このような取り組みに日本財団が「再チャレンジ奨学金制度」の提供を申し出てきました。

副島さんは5年以内に自立更生者を100名排出し、30年後には全国で年間5000名にし、再犯率低下に貢献する事が目標で、既に5人の出所者を正社員として雇用して経理も任せていると言われました。

強い信念と行動力をベースに、問題を明らかにしてそれを解決する設計図の書き方がすごいと思いました。

先見性を磨く方法

副島さんは先見性を磨く方法として、毎日「10年先見カノート」を書いていると言われました。これはこれから10年先の姿を書き、現状との差を埋めていくノートで、毎朝6時30分から書いていると言われました。

「自分を見つめる時間と空間を作り、やりたい事を書き出す事です。脳細胞は自分で課題を与えないと働きません」と言われました。世の為人の為になる取り組みは、すごいエネルギーと循環を生み出すと思いました。

